

# JCAAW

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.

## ワシントン日本商工会会報

11月号 2025年 No. 577

### 目次

- 特別告知！「Save the Date!」  
2026 ワシントン新春祭り開催決定！……………2
- 在米国日本大使館・ワシントン商工会共催  
秋季ネットワーキングイベント 開催報告……………3
- J.LIVE Talk 2025 報告  
寄稿:ジョージ・ワシントン大学 辻岡孝枝……………5
- 広告募集のご案内……………7
- ワシントン月報(第214回)「服部自叙伝(3)」  
米国特許弁護士 服部 健……………9
- 今月の書籍紹介「原罪」  
ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子……………12
- English Rescue by Jennifer  
「Language and Culture」……………14
- 編集後記……………16

JCAW Copyright © 2025 All Rights Reserved.  
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

### 今月の特集

特別告知！「Save the Date!」2026 ワシントン新春祭り開催決定！

皆様のご厚情にお応えしたく、来年も新春祭りを開催する運びとなりました。是非ともカレンダーにマークをお願いいたします！ P.2



「在米国日本大使館・ワシントン商工会共催 秋季ネットワーキングイベント 開催報告」

在米国日本大使館との共催にて、昨年同様、大使館旧公邸をお借りしてのネットワーキングイベントは大盛況となりました。ご報告いたします。P.3～



「J.LIVE Talk 2025 報告」

今年で創設10周年を迎えられた J.LIVE Talk。第11回の開催模様をジョージ・ワシントン大学の辻岡様にご寄稿いただきました！ P.5～



Happy Thanksgiving



## 特別告知！「Save the Date!」 2026 ワシントン新春祭り開催決定！

新春祭り 広報担当

今年1月、多くの皆様にご参加頂き大盛況となった商工会のワシントン新春祭りが、多くの皆様からのご期待を受けて、来年2026年も開催されることになりました。

1月25日(日)午前11時から午後3時まで、今年同様、ジョージメイソン大学(GMU)アーリントンキャンパスにて実施の予定です。今後、開催日が近づくのに合わせて詳細情報をお伝えしていきます。

この機会を逃すことなく、まずはカレンダーにマークをお願いします!!!

# 2026 ワシントン 新春祭り



## Save the Date! 新春祭り開催概要決定!

日時: 2026年1月25日(日) 11:00am~3:00pm  
場所: George Mason University Mason Square (Arlington Campus)  
3351 Fairfax Dr, Arlington, VA 22201  
共催: Study Japanese in Arlington、たんぽぽ学園、ワシントン日本語学校、ワシントン日本商工会  
後援: 在アメリカ合衆国日本国大使館



皆様からの好評を受け、来年2026年も新春祭りを開催いたします!

開催場所は、今年同様George Mason University Mason Square (Arlington Campus)です。

ワシントンでの日本のお正月気分を味わって頂くべく、JCAWの精鋭が実行委員会メンバーとして参画し、鋭意企画を進めています。

近日中に、商工会WEBサイトなどのご案内を開始しますので、ご期待ください。まずは来年1月25日にはなまるマークをいれてください!

(JCAW新春祭り広報担当)

## 在米国日本大使館・ワシントン商工会共催 秋季ネットワーキングイベント 開催報告

会員担当理事: 善見和浩／齋藤健太

10月22日(水)、在米国日本大使館との共催により、日本大使旧公邸にて秋季ネットワーキングイベントを開催いたしました。当日は、商工会会員のみならず非会員の方々も含め、延べ95社・192名の皆さまにご参加いただきました。



開会にあたり、商工会の中村会長(三菱重工・ワシントンDC事務所長)よりご挨拶があり、世界情勢が複雑化する中で、ワシントンDCにおける日系コミュニティの連帯がますます重要になっていること、本イベントをその一助として活用してほしいとのお言葉をいただきました。続いて、大使館の岡崎公使(経済班)より、日米関係がこれまで以上に良好かつ強固な関係にあること、その礎として参加者の皆さまと引き続き連携を深めていきたいとのご挨拶の後、乾杯のご発声をいただきました。

当日は、日本大使旧公邸の1階およびテラスを使用させていただき、伝統と品格ある雰囲気の中、ワシントンの日本料理店による寿司、唐揚げ、シュウマイなどの料理を味わいながら、会場のいたるところで活発な交流・ネットワーキングが行われました。各班の公使をはじめ、大使館職員の皆さまにも多数ご参加いただき、参加者同士の親睦が深まるひとときとなりました。

閉会に際しては、商工会のファース幹事より「本日築いたご縁を今後も大切にしていきたい」とのメッセージとともに、今後予定されているテニス大会や新春祭りなどのイベントについてご案内いただき、一本締めで締めくくられました。

約2時間のイベントは、多くの方々と交流するには短く感じられたかもしれませんが、今回のイベントを通じて築かれたネットワークが、今後の皆さまの活動の一助となることを願っております。





最後に、ネットワーキングイベントを大過なく盛況のうちに開催できたことを、参加者の皆さまはもとより、会場設営や片付けに多大なご協力をいただいた大使館の皆さまに心より感謝申し上げます。

次回のネットワーキングイベントは、来年初夏頃の開催を予定しております。今回、スケジュールや会場の都合によりご参加いただけなかった方も含め、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

(了)



Illustration by Emi Kikuchi

米国日本通運株式会社は2022年1月より、社名を**NXアメリカ株式会社**へ変更致しました。



**帰国の際の引越はNXアメリカにお任せください**

お問い合わせ、お申込みはNXアメリカワシントン営業所まで

**TEL: (703)-661-8326 (日本語ダイヤル)**

**URL: <https://www.nipponexpress.com/moving/us/>**



## J.LIVE Talk 2025 報告

寄稿: ジョージ・ワシントン大学 辻岡孝枝



2025年11月9日(日)、ジョージ・ワシントン大学 Amphitheaterにて、第11回 J.LIVE Talk (Japanese Learning Inspired Vision and Engagement) が開催されました。2015年の創設以来、J.LIVE Talkは全米の日本語学習者が日本語で自身の視点や体験を発信する場として発展してきました。今年の10周年記念大会でも、TED Talkスタイルの活気あるプレゼンテーションを通じて、学びと交流が一層深まりました。

今年は、2つの高校部門と3つの大学部門で、カリフォルニア州、コロンビア特別区、アイダホ州、メリーランド州、ノースカロライナ州、ネブラスカ州、ニューヨーク州、オハイオ州、ペンシルベニア州、テキサス州、バージニア州と、全米各地からの応募者77名より、計15名のファイナリストが選出されました。ファイナリストたちは日本語学習への熱意と創造性、そして異文化理解への真摯な思いを込めた素晴らしい発表を

行い、会場は大きな感動と活気に包まれました。

審査員としてご参加くださったのは、アメリカ合衆国日本国大使館広報担当公使の大平真嗣氏、丸紅米国会社ワシントン事務所長の井上祐介氏、Michael Best & Friedrich LLPパートナーの山田有美氏、米国法人日本国際交流センターディレクターの加藤和世氏、そして国際基督教大学応用言語学准教授の辻田麻里氏の5名です。

審査員の皆様からは、「どの発表も甲乙つけ難い素晴らしい内容で、選考が非常に難しかった」との声が寄せられました。それぞれの発表に個性と熱意があふれ、10周年にふさわしい高水準の大会となりました。オンラインプログラムと審査結果は、以下のリンクでご覧いただけます。

[プログラムはこちら](#) ・ [審査結果はこちら](#)

10周年記念特別企画として、歴代受賞者からのビデオメッセージも披露されました。受賞者たちは、J.LIVE Talkの経験が学業やキャリアの発展、日本とのつながりを深める契機となったことを語り、そのメッセージは観客に深い感銘を与えました。ビデオはJ.LIVE Talkの[YouTubeChannel](#)でご覧いただけます。





今年は新たな取り組みとして、TABLE FOR TWOによる世界的な社会貢献活動「おにぎりアクション」との連携を実施し、来場者が撮影したおにぎり写真をSNSに投稿することで、途上国の子どもたちに学校給食を届ける支援につながりました。

J.LIVE Talkは、ワシントンDC日本商工会の皆様から長年にわたる継続的なご支援を賜っております。また、日本語教育支援理事の方々を通じた人的支援や専門的アドバイスは、イベント運営において欠かすことのできない大きな支えとなっております。心より感謝申し上げます。

J.LIVE Talk 2025は、多くのスポンサー、ボランティア、そして地域の皆さまのご協力に支えられ、成功裏に幕を閉じました。運営委員会一同、JCAWの皆さまをはじめ、ご協賛いただいた団体の皆さまに深く感謝申し上げます。10年間を通して築かれてきた言語・文化交流の輪が、今後もさらに広がっていくことを願っております。こちらで掲載が叶わなかったその他たくさんのイベント写真は[こちら](#)よりご覧ください。

(文責: ジョージワシントン大学 辻岡孝枝)

J.LIVE Talk は、以下のスポンサー団体によって実現しています。:ANA、在アメリカ日本国大使館、ジョージ・ワシントン大学、国際基督教大学、ワシントンD.C.日本商工会、日米友好基金、丸富日本食品マーケット、ナガヌマスクール)、南山大学、O-en Network、双日財団、東芝国際交流財団、TOP US

ブース展示において伝統的および現代的な日本文化を紹介するため、以下の地域コミュニティや日系企業の皆さまから多大なるご支援をいただきました。:American Association of Teachers of Japanese, GW Anime Society, GW Japanese Cultural Association, GW Japanese Student Union, Hana Market, Kinokuniya USA(紀伊國屋書店USA), Matcha Time Gift Shop, Mid-Atlantic Association of Teachers of Japanese, Study Japanese in Arlington, Tokiya Japan



# 広告募集のご案内

## JCAW会報に広告を掲載しませんか？



広告のイメージ図

JCAWは、ワシントンDCにおける日本人コミュニティの重要な情報発信元であり、商工会議所として地域社会において重要な役割を果たしています。

そんなJCAWの会報を通じて、貴社の広告や宣伝を効果的に発信しませんか？

会報の広告にはリンクを設定でき、クリック一つで貴社のウェブサイトやEメールアドレスにアクセス可能です。さらに、年間契約でお得なプランもご用意しております。

詳細は、ぜひJCAW事務局までお問い合わせください。

### 料金体系（2025年1月からのレート）

| 広告掲載先 | サイズ    | 商工会会員 |         | 非会員   |         |
|-------|--------|-------|---------|-------|---------|
|       |        | 月料金   | 年料金     | 月料金   | 年料金     |
| 会報※   | 1/4ページ | \$60  | \$550   | \$90  | \$790   |
|       | 1/2ページ | \$120 | \$1,090 | \$150 | \$1,340 |
|       | 1ページ   | \$240 | \$2,180 | \$290 | \$2,620 |

※ 会報広告 原稿制作費は当広告掲載料金に含まれません。原稿は広告主様にて手配願います。  
1年（1月～12月）契約で1回割り引きとなります。（会報は年10回発行）

### お問い合わせ先

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.  
1819 L Street N.W., Suite 410, Washington, D.C. 20036  
TEL: 202-463-3947 FAX: 202-463-3948  
Email: [office@jcaw.org](mailto:office@jcaw.org) URL: [www.jcaw.org](http://www.jcaw.org)



## iii career インテレッセ DC支店

### 地域密着で25年の信頼と実績

「人・仕事・地域社会」をつなぐ架け橋に  
お客様一人ひとりに寄り添い、  
信頼できるパートナーとしてサポート。

Interesse DCオフィスは、皆様のおかげで25年を迎えました！日英バイリンガル人材の派遣・紹介を通じてWashington, DC地域の特性やニーズを理解し、きめ細やかなサービスを提供します。

#### 当社の強み

- バイリンガル人材のニーズに特化
- 地域密着で安心のサービス
- 政府機関から民間企業まで幅広く対応

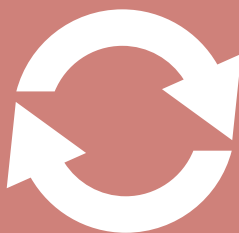
#### 提供サービス

- iiicareer事業：人材紹介・派遣、雇用代行サービス
- iiiHR事業：人事コンサルティング、人事情報管理クラウドサービス、各種調査業務
- iii-Media事業：地域情報満載の「さくら新聞」の発行

**interesse international inc. DC支店までお気軽にご相談ください！**

Email: dc@iiicareer.com Tel: 571-384-7117  
1717 K Street NW Suite 900, Washington, DC 20006

## 登録情報の ご確認、更新をお忘れなく



法人会員、個人会員ともにご登録情報（会員名、電話番号、メールアドレスなど）にご変更がある場合は、お気軽に事務局までメール（office@jcaw.org）にてご連絡ください。

会報やその他の情報がタイムリーにお手元に届きますよう、登録情報の更新にご協力ください！

**JCAW**  
Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.



YAMATO  
TRANSPORT  
U.S.A.

INTERNATIONAL  
MOVING SERVICE



お荷物の多い方！時間のない方！  
面倒なお引越は全てまかせて  
ら〜くらく！



安心

引越 **海外パック**

箱に入らない家具や  
自転車なども送りたい、だけど安く  
済ませたい！そんな方へ



丁度いい

**ベーシックプラン**

定形の箱に入るお荷物だけ  
ご自身で梱包をして節約！  
すぐに必要ではない  
お荷物は船便で割安に



節約

**単身プランSea**

定形の箱に入るお荷物だけ  
ご自身で梱包をされる方  
必要な荷物を  
最短の所要日数でお届け



早い

**単身プランAir**

各サービスの詳細はウェブサイトにてご覧いただけます！

[www.yamatoamerica.com/cs/](http://www.yamatoamerica.com/cs/)



フリーダイヤル 5 4 5 6 5 8  
**1-866-5-KIKOKU**

日本以外の世界中へのお引越・米国内のお引越も！

米国ヤマト運輸 ワシントンDC支店

22930 Quicksilver Drive, Unit 115

Dulles VA, 20166

Phone: (703) 661-3501

Email: wasoperat@yamatoamerica.com



ワシントン月報(第214回)  
「服部自叙伝(3)」

米国特許弁護士 服部 健一

## 前回までのあらすじ

私は幼少の頃はとにかく軽率で無鉄砲だったようで、池に落ちて水の中で気を失ったところをそばの庭で洗濯していたおばさんに助けられたり、あるいは五日市街道というバス通りに飛び出して車に轢かれて左足を骨折したが河北病院で手術をして完治して、退院後しばらくすると学校仲間と走り回ったりしていた。そのため、これらの事故の事はその後の若い人生の時は全く考えもしなかったが、その後人生の岐路に立った時に重要な判断材料になったのは人生の妙と言えるのかもしれない。ともあれ軽率で勉強嫌いであったために小中学校で手を挙げて発言した事は全くなく、成績は燦燦たるものであったため、大学受験を心配した父は、「創立して間もない武蔵工大付属高校へ行け。ここならお前でも何とかついて行けるだろう」と言って、半ば強制的に付属高校へ行かされた。



## 5.大学時代

## 5.1 テニスのレッスン・プロを考える

付属高校から武蔵工大へ行くのは基本的にはエスカレート式であり、且つ私の成績は当時の付属高校の凡庸仲間の中ではまあ良かったので問題なく大学生にはなれた。父の思惑通りであったとも言える。大学生になってからの私の最大の目標は勉強よりも高校時代に鍛えて東京代表になったりしたテニスをどこまで上達させるか、であったが、とにかく硬式テニスが自分に合い、体格も良くなっていたせいかどんどん上手になっていった。



大学1年の時、関東の学生テニス連盟は関東理工系大学選手権大会を初めて開催し、私はシングルスで決勝まで行き、関東大学で第2位になったのである。1年生で2位だったからこのまま2～4年まで続ければ卒業する頃は学生チャンピオンになれるだろう、と考えたのは自然である。その頃は当時の皇太子と皇太子妃がテニスが縁で結婚したのでテニスは突然の大ブームになっていた。そのためもあってか、私と同期でテニスパートナーの清水(故人)のお父さんが勤めるモービル石油という外資系会社の社員達にテニスを教えて欲しいという要請があり、私と清水2人で毎日曜日にテニスを教える事になった。最初は緊張のあまり話す言葉はオドオドして呂律が回らず、教える事や話す事の難しさを知らされたが何週間かする内にやっと多少ともに話せるようになり、清水とこれは社会人になるための良い勉強にもなるな、と話し合っていた。

その上、テニスを教える内に気が付いた事は、テニスの技量が必要な事は当然としても、コーチはまずとにかく話す事が大事であり、テニスの教え方は生徒によってかなり変えなければ生徒は上手にならないという事だった。要するに生徒は体力がある者もいればない者もあり、運動神経がある者もない者もあり、男性もいれば女性もいるので教え方や言い方をその生徒に合っているように教えなければ上達しない、好きになれないどころか、場合によってはテニスを嫌いになる、という事である。これではテニス・ビジネスも成り立たなくなる。

こうして我々は二人で教え方、話し方を相談しながら必死に勉強し、これがその後の人生においても、仕事においても非常に役に立ったのである。それは仲間と話して仕事をする時にも同じで、相手がどう理解するか、あるいは出来るかどうかを考えて工夫して言えばより良く伝わり、ミスもなくなるからである。

とにかくレッスン参加者達に分かり易くテニスを教えるという事を十分考えた我々のテニス・レッスン法は非常に人気があり、テニス・ブームもあって我々は卒業したらレッスン・プロにもなろうかと真剣に考え始めた。ともあれ、このテニス・レッスンのお陰で私は「寡黙の服部」から少しずつ「弁舌の服部」に変貌し、成長して行ったのは間違いのない事実である。そして清水は卒業後に本当に一級建築士とテニス・レッスンの両方を仕事にして行き、私もそこで臨時コーチとしてずっとアルバイトしていた。

## 5.2 父の方針

こうして勉強はそこそこのして、テニスに没頭していたが、大学1年が終わる時に父は私を呼びつけて、「テニスをし過ぎて勉強が疎かになっている、テニス部を辞めろ」と命令してきた。服部家では父は絶対君主であり、また父の言う事は本質的には大体正しいので、逆らいようがなかった。

こうして私は大学1年の終りでテニス部を辞めさせられたので、テニスは卒業して就職してから再開しようと心に誓っていた。そして数日すると父は、これを勉強しろ、と言ってある本をポンと渡して来た。その本は「国家公務員試験問題集」という父自身が出版した本だった。特許庁にいて特許学者であった父は特許や技術関係の本を10数冊出版していたが、こんな本も出版していたのか...と唖然とさせられたものである。まあ、そのために卒業する時に私は公務員試験に合格していたのかもしれない。

合格してびっくりしたのは私よりも父であった。父は、「よし、それならお前は特許庁へ行け!」と叫んだ。私は外資系会社にでも行ってテニスを本格的に再開するつもりだったので渋ったが、父は、「特許は合法的独占権だからこれからは日本にとって非常に大事になる、特許庁も国際官庁になるぞ」と言い、私の希望や意見は一切受け付けなかった。こうして私は特許庁へ行き(行かされ)、特許庁で初めて親子で働く事になったのである。とにかく生まれてから特許庁へ行くまでの人生は父が全てを決めていたのである。これは長男の私だけではなく、長女の姉や母の人生もそうだった。

## 5.3 米国人出張者との英語テニス

大学1年の終りにテニス部を辞めさせられたが、父は武蔵工大のそばにある田園コロシアム・テニスクラブのメンバーにさせてくれて、たまに週末にテニスをする位の事は許可してくれた。田園クラブは日本で1、2位を争う格式のある著名なテニスクラブであった。そのクラブのメンバーには日本

で最初のテニスプロになった石黒修氏(故人)がおり、私はたまに練習相手をさせられた。2人でバンバン打って汗だくになりながら休んでいるとマネージャーがそっと私に近づいて、「服部君、すごいね、ほぼ対等じゃないか」と言ってくれる。それに対して、「まあ、練習ですからお互いにいる所に打つのでバンバン打てるんですよ、試合になったらいい所に打たれるのでどうなるか分かりませんよ」と答えておいた。

その後、他のメンバー達と試合をしていると、フェンスの外で我々のテニスをじっと見ているアメリカ人がいる事に気が付いた。良く来てずっと見ているので私はゲームの合間にフェンスの方へ行っ

て彼と英語で話した。

「やあ、テニスがお好きなんですか？」

「ああ、私はテニス大好きなんだ」

「じゃあ、入って一緒にやりますか？」

「でもクラブのマネージャーと話したらこのクラブは紹介者がいないと駄目だと言われたんだ」

「それなら私が紹介者になりますよ」

「え！ 本当かい！ 是非頼むよ」

こうして彼は私のビジターとして来て、一緒に練習試合するようになったのである。そして、彼とテニスをしている内に彼等のテニス英語は我々日本人のテニス英語とかなり違う事が分かった。たとえば、最初にボールを打つ時に我々は「行くぞ(going!)」と言うが、彼は「来るぞ(coming!)」と相手の立場の表現で言うのである。打ったボールがアウトした場合、我々日本人は「アウト」とか「サイドアウト」と言う。しかしアメリカ人の彼は長く外れた場合は「ロング」、そしてサイドに外れた場合は「ワイド」と言うのであった。こういう生きたテニス英語を用いてテニス・レッスンで日本人に教えると英語とテニスの両方を学べるのでテニス・レッスンはもっと人気が出るのではないか、いつかそれをしようか...、と考えたりしていた。私は、今、バージニアでアメリカ人と日本人と一緒にテニスをする時は、アメリカ人にはテニス用語の日本語表現、日本人には英語表現の表を渡して両者に日本語と英語を勉強させる事もある。

(続く)



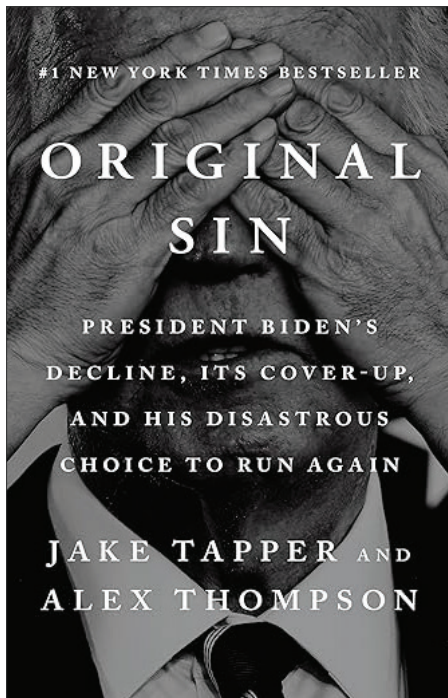
## 今月の書籍紹介

人のことを言えない年齢になってきた「ボケ」なのに、「政治家はご同輩ばかり」は世界共通

「原罪」

ジェイク・タッパー、アレックス・トンプソン

ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子



「原罪」  
ジェイク・タッパー、アレックス・トンプソン  
(ペンギン・プレス)

タイトルの「原罪」という言葉は、人類の始祖アダムとイブの過ちによって、人間が生まれながらに罪を追っているというキリスト教の教えを思い浮かべさせる。それは個人的な罪の原因とされているが、本書の副題は「バイデン大統領の衰え、その隠蔽工作、そして再出馬という悲惨な選択」。著者たちは、2024年大統領選挙で「原罪」を犯したのは、再出馬を決めたバイデンと彼の認知機能の低下を隠した積極的な取り組みだと指摘する。

本書のリリースで暴露されたバイデン大統領の認知能力低下に対し、トランプ大統領は、バイデンではなくスタッフが意思決定を下し、オートペンを利用して、恩赦を含めた文書に署名しており、それらは無効だと訴え、調査を命ずる覚書に署名した。なお署名を自動で複製する機械は、トランプも含め歴代の大統領が利用しているものだ。

バイデンは最近、ステージ4の前立腺癌で、骨にも転移していることを発表した。そもそも大統領は毎年、健康診断を受け、その結果は公表されるものだが、癌がここまで悪化するまで発見されなかったのか、それとも急に進行したのかは知るすべもない。また認知機能が低下していながら、そのテストはされなかった。

本書はジル夫人、ほかの家族、そして少数のホワイトハウス側近、選挙陣営がいかにバイデンを庇い、大統領としての職務を果たす能力の低下を隠ぺいし続けた事を鮮明に描いている。

その結果、トランプ候補との討論会で醜態を晒すまで、バイデンの衰退度を一般市民が知ることはなかった。討論開始10分後には言葉に詰まったり、事実を言い間違えたり、一文を終える前に他のことを話し出した。共著者の1人タッパーはCNNの6月27日の討論会の司会を務め、コントロール・ルームに「何ということだ」とiPadで連絡。もう一人の司会者も「彼はたった今、落選した」とタッパーにメモを渡した。関係者、視聴者も啞然とした。

本書によると、バイデンの認知能力低下は、愛する長男ボーを失ってから徐々に始まっていたようだ。ボーは弁護士で、デラウェア州陸軍州兵としてイラクに出兵したり、デラウェア州司法長官を務め、州知事選出馬を宣言していたが2015年、脳腫瘍で亡くなった。

一方、次男ハンターは長年、父親の名前を利用していた。薬物依存者でもあり、2023年には脱税と不法な銃所持の疑いで連邦検察に訴追された。司法取引が決裂し、裁判では彼の悪行が明らかになり、銃の不法購入・所持に有罪評決が下された。これもバイデンに堪えたようだ。

民主党政治家たちのバイデンの高齢での再出馬に対する懸念は高まっていたが、本人の決断に委ねられていた。が、討論会後の7月10日、これでは民主党候補が全滅すると懸念した俳優ジョージ・クルーニーが新しい民主党大統領候補が必要とNYタイムズに意見書を発表。その後もトランプに勝てるのは自分だけと信じていたバイデンが、低支持率を伝えられ、やっと出馬を取り下げたのは7月21日のことだった。

政権に対する不満が高かった中、民主党が予備選をして候補を決めれば、トランプに勝つ可能性があったのか疑問だが、バイデンが足を引っ張ったのは事実だ。

その後、トランプ政権の前代未聞の権力行使横暴ぶりに米民主主義が危ぶまれているが、民主党は世代間、思想で分裂しており、有効な対抗手段を打ち出せずにいる。

(NEW LEADER2025年7月号より転載)

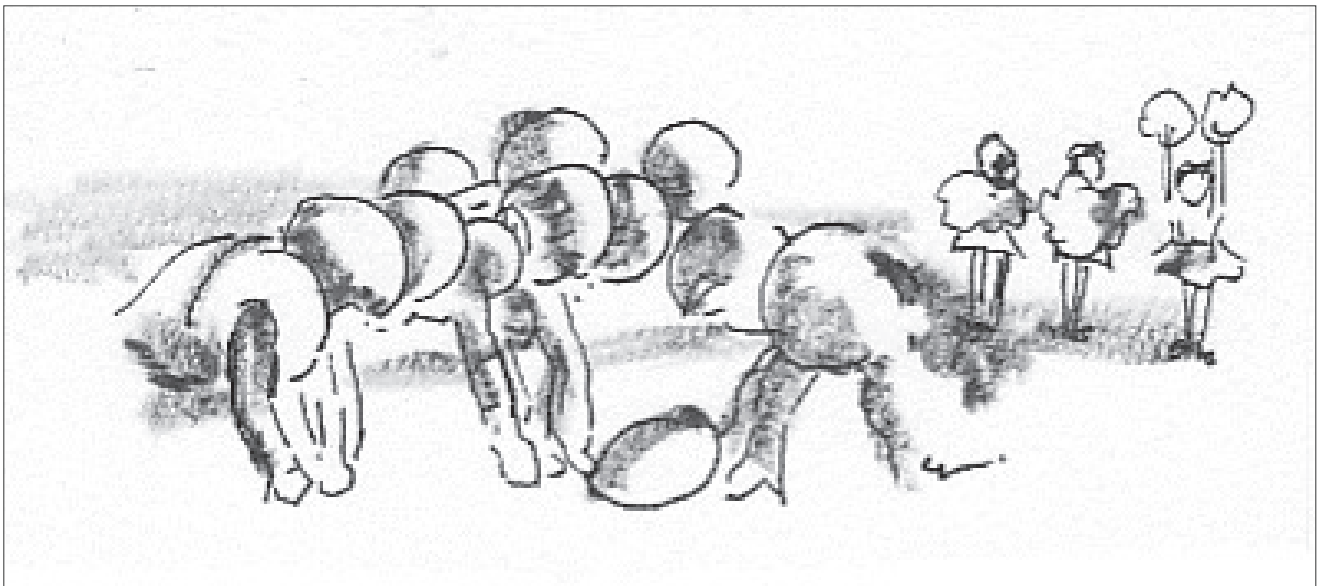


Illustration by Emi Kikuchi

## English Rescue by Jennifer: 「Language and Culture」

ジェニファー・スワンソン

---

### Hot Topics – Judicial Branch - Reproductive Rights

With a change in administration and a wave of executive orders, federal court challenges are happening at multiple levels. To help make sense of this system, this year we're focusing on the U.S. Constitution, its amendments, and key Supreme Court cases that have shaped how laws are interpreted and how Americans understand their rights.

So far, we've covered the U.S. Constitution, including its 27 amendments, the system of checks and balances, the seven articles that establish the government, and key principles such as Judicial Review, Amendments 2, 5 and 14, and *Plessy v. Ferguson* and *Brown v. Board of Education*, and the Citizens United Case of 2010.

This month we will look at 2 related cases related to a women's rights to make her own medical decisions.

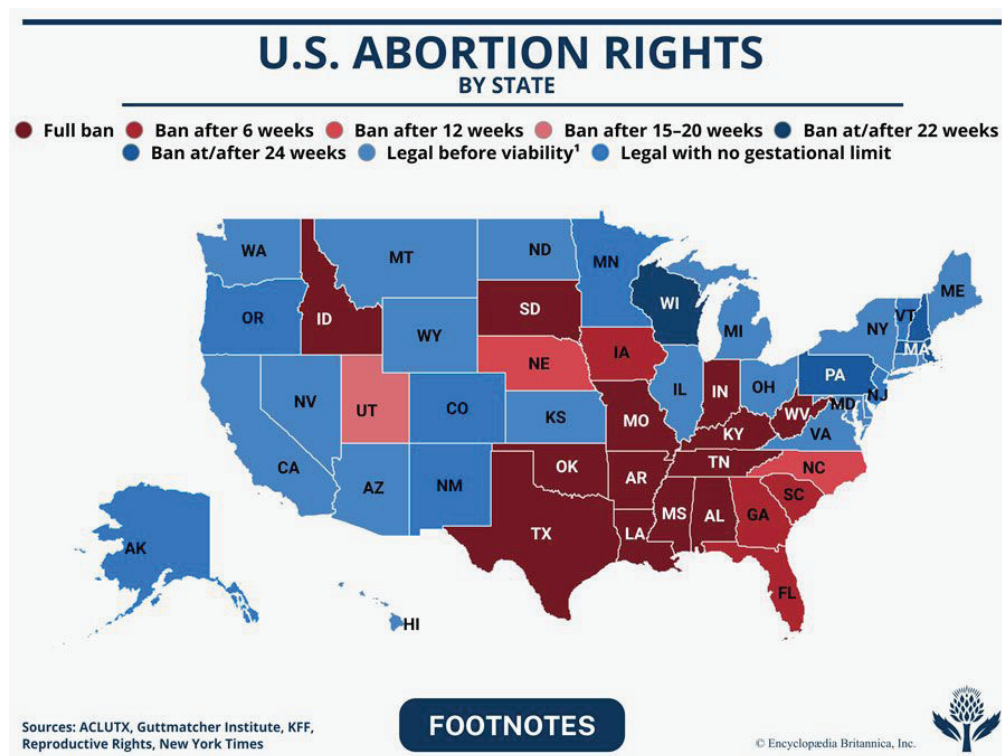
**Roe v. Wade (1973)** was a landmark Supreme Court case that established a woman's constitutional right to choose an abortion under the implied right to privacy in the Fourteenth Amendment. The Court ruled 7–2 that states could not ban abortions during the early stages of pregnancy, though they could impose some restrictions in later trimesters. This decision effectively legalized abortion nationwide and became a central issue in American politics and culture.

Abortion is an important issue because it touches on deeply held beliefs about **life, personal freedom, and government power**. For many, it raises moral and religious questions about when life begins and the rights of the unborn. For others, it centers on a woman's **right to make decisions about her own body** and access safe medical care without government interference. The debate also has major **social and political impacts** — shaping elections, laws, and health policies across the country.

In the 2022 **Dobbs v. Jackson Women's Health Organization** the Supreme Court upheld a Mississippi law banning most abortions after 15 weeks of pregnancy and overturned *Roe v. Wade*, ending the federal constitutional right to abortion. The Court ruled that the Constitution does not guarantee a right to abortion and that the issue should be decided by individual states. Supporters of the decision argued that abortion law should be determined democratically by states, while opponents warned it would restrict women's rights, access to healthcare, and create major inequalities depending on where someone lives. The ruling dramatically changed abortion access in the United States, with some states banning it almost entirely and others moving to protect it.



Since the Supreme Court overturned *Roe v. Wade* in *Dobbs v. Jackson* (2022), abortion access in the United States has become highly unequal, with some states banning it almost entirely while others protect it. This has forced many people to travel long distances for care, creating financial and logistical barriers, especially for low-income and rural patients. The ruling has also caused legal confusion for doctors and patients, led to health risks from delayed or restricted care, and intensified political and social polarization. Experts also warn that the reasoning in the case could affect other privacy-based rights, making it a significant and ongoing national issue.



- [https://constitutioncenter.org/the-constitution/supreme-court-case-library/dobbs-v-jackson-womens-health-organization?utm\\_source=chatgpt.com](https://constitutioncenter.org/the-constitution/supreme-court-case-library/dobbs-v-jackson-womens-health-organization?utm_source=chatgpt.com)
- [https://www.britannica.com/event/Roe-v-Wade?utm\\_source=chatgpt.com](https://www.britannica.com/event/Roe-v-Wade?utm_source=chatgpt.com)
- <https://reproductiverights.org/maps/abortion-laws-by-state/>



## ～Jennifer Swanson プロフィール～

日本にて7年在住中に、高校英語教師の経歴を持ち、日本企業でも働いた経験を生かし、現在は米国大学講師、日米協会講師、在米日本人に英語レッスンの他、米国人に日本語も教える。日米でのさまざまな経験を基に、“頻出テーマで はじめてのTOEFLテスト 完全攻略”(高橋書店: Jennifer Swanson/四軒家 忍 (著))を出版、多方面から楽しい英語レッスンを展開しています。

[jenniferswanson.org](http://jenniferswanson.org)



## 11月号 編集後記

先月下旬のトランプ大統領訪日、高市新総理との日米首脳会談で忙殺された方々も多いと思いますが、まだその余韻が残っているような感覚であり、やっと解決した政府閉鎖騒動を除けば、比較的静かな日々と感じるのは自分だけの錯覚でしょうか。

今月初に実施されたVAとNJの州知事選挙、NYCの市長選挙で民主党候補が勝利しました。これを受けて世の中は来年秋の中間選挙に向けた動きに注目がシフトしています。トランプ政権は任期がまだ4分の1しか終わっていませんが、この1年の激動による疲弊感もあるのかもしれない。

サマータイム終了により日没時間が早くなり気温も下がって、冬の訪れを強く感じます。サンクスギビングからクリスマスへと何かとそわそわと落ち着かないシーズンに入ります。商工会会員の皆様におかれましては、引き続きご健康に留意しながら晩秋をご堪能ください。

岡崎・岡本

---

会報に関するお問い合わせにつきましては、[JCAW事務局](#)までご連絡ください。

---